

## 特別名勝 虹の松原④

～幻のキノコ ショウロも見られます（1/2）～

虹の松原には季節ごとに多くのキノコが発生し、現在100種以上のキノコが確認されている。キノコには落ち葉を分解する腐生菌、木材を腐らせる木材腐朽菌、松の根に菌根を作って共生する菌根菌とに分けられる。

調査によると 松原で見られるキノコの半分以上が菌根菌である。また、アマタケ、シモコシ、ショウロなどのように食用にされるキノコは約4分の1で、テングタケのような毒キノコはほぼ同じ割合で生えている。毒キノコも多くあるので、注意が必要である。

クロマツ林は手入れしなければ、遷移によって広葉樹林となり、終にはクロマツが消滅する状態の極相林となる。遷移の状態とキノコの種類とは関係があり、クロマツが健全な頃にはキツネタケ、ショウロ、アマタケ、ハツタケなどの菌根菌が多く見られる。しかし、ベニタケやクロハツが出るようになるとクロマツはほとんどなくなり、広葉樹林に変わっていることを示している。

クロマツと共生する菌根菌で最も多く見られるキノコはショウロである。虹の松原にはアカマツもあり、アカマツの菌根菌で有名なキノコはマツタケも見られる。

ショウロはクロマツと共生関係にあり、マツの根にミネラルや水分を供給している。ショウロ菌がついたクロマツは干ばつに強く、病気にも強いと言われている。ショウロ菌はクロマツの生育環境の健全さを表わすバロメータと考えることができる。

40年くらい前までは、虹の松原にショウロがたくさんありましたが、最近是非常に少なくなった。この原因は「松葉かき」が行われなくなったために、ショウロが育つ環境ではなくなったためと言われている。昔は松葉を燃料にして御飯を炊いたり、料理に使っていましたが、現在はガスや電気を使うようになったので、松葉の必要性もなくなり放置されるようになった。以前は「松葉かき」によって、松原の中では雑草がはびこることなく、砂地がむき出しになっていた。

ショウロは時期的には春と秋にみられる。また場所的には次のようなところで見られる。

- ①日当たりが良い
- ②地表が砂地である
- ③若い松があること
- ④やわらかい砂地である。

～2/2へつづく～

分野	自然
地域	唐津・浜玉

◎地図・写真・統計資料など



ショウロ



マツタケ



ショウロ

(佐賀大学客員研究員 田中明氏より)

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 特別名勝 虹の松原④

～幻のキノコ ショウロも見られます（2/2）～

～1/2からつづく～

今、虹の松原では松葉かきをして、ショウロを再生する市民による活動が行われている。ショウロ育成の試みは、つまりは白砂青松の虹の松原を取り戻すことである。4月6日を「松露の日」として、松露に目を向けて、虹の松原を大切にできる機会としている。ショウロをクロマツの健全さを表すバロメータとして、白砂青松の松原を保全再生しようとする試みは全国で初めてである。

お吸い物に、松露とシロウオを入れたものは季節的に最高の食事です。ショウロはシャキシャキとした食感が一番の特徴です。唐津の名物の松露饅頭はその形がショウロに似ているので、名前がつけられました。

春と秋には、虹の松原ではきのこの観察会が行われている。観察会によって新たに発見されたキノコもあります。

分野 自然

地域 唐津・浜玉

◎地図・写真・統計資料など



ショウロ



マツタケ



ショウロ  
(佐賀大学客員研究員 田中明氏より)

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)